

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400253		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド平城山・山城		
所在地	京都府木津川市梅美台2丁目1-1		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会		
所在地	京都市右京区西院久田町5番地		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出は控えているが、ご家族様との外出希望があれば、外出して頂いている。
 面会も緩和時期は短時間であるが居室で一緒に過ごして頂いている。
 ホーム内では季節を感じて頂ける様、毎月行事を行っている。また、誕生日の方は、極力誕生日にお祝いしている。
 日々の過ごし方はほぼ毎日体操やレクリエーションを実施し、気候のいい時期は散歩等、行く様にしており、メリハリのある生活を送れるようにしている。
 夏は家庭菜園を行い、野菜を育てたり、収穫を楽しんで頂いている。
 管理栄養士も毎月訪問があり、助言を受けている。また、2か月に1回おやつ作りをして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、木津川市内の新興住宅地に立地したグループホームです。事業所開設から21年経ち、管理者も担当して10年経つことことから、行政機関や地域とは顔が見える関係であるといえます。また法人本部では福祉避難所の申請をされていることから、防災を通じて地域との連携を深めていかれることに期待できます。新型コロナウイルスが5類に移行されたことで運営推進会議の対面開催や面会の規制を解除し、外出や自宅訪問、美容院も家族対応で再開しています。また家族以外の面会も再開したことで、友人が家族と一緒に来所されるなど利用者の限られた時間に前向きな対応をしています。家族へは、担当制による個別の「一言通信」(手書き、写真付き)や日々の様子やおやつレク、行事の様子などが掲載されている「笑顔だより」などを毎月、法人本社から送付して関係が途切れないように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 自分らしい安心できる生活をお手伝いします。 2. 入居者の尊厳を守ります。 3. 地域との連携に努めます。 上記の運営理念を掲げ、目の付く所に貼り付けし実践するよう、心掛けている。	設立当初の理念を玄関、台所に掲示して職員、利用者も見られるようにしている。会議や日常業務の中で伝えることで理念の確認を行っている。新人研修では資料に沿って説明している。名札の裏に「職員の心得」を携帯している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員になり、地域行事(夏祭り)や地域清掃、近隣の保育園行事にも参加していたが、コロナが流行してからは、現在も中止中である。再開されたら、参加する予定である。	運営推進会議に地域住民(米穀店)、民生委員の参加があり情報共有をしている。近隣への散歩で挨拶をしたり、並びにある動物病院の前のベンチに座って交流している。保育所とは年賀状のやりとりをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談や、見学を受け入れている。 現在は中学生の体験の受け入れは中止になったままであるが、再開したら受け入れする予定。求職者支援訓練の方は職場体験の受け入れを行っており、その際に認知症について説明している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第二金曜日にホームで開催している。毎月の活動報告や、身体拘束等の報告を行い、ご意見や助言等も頂戴している。	市担当課、包括、地域住民(米穀店)、民生委員、家族の参加のもと対面での開催を再開している。委員には議事録を送付し、意見があれば掲載して共有している。家族へは担当制による個別の「一言通信(手書き、写真付き)」(毎月送付)と一緒に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢介護課や地域包括等、運営推進会議への出席はして頂いているが、以外でも電話や対面でのやり取り等を行い、協力関係を築ける様に心掛けている。	市担当課職員が運営推進会議に出席している。所用があれば電話だけではなく、訪問するようにして協力関係を築くよう取り組んでいる。日々の様子、おやつ、行事の様子などが掲載されている通信「笑顔だより(法人本社作成)」を市役所等に配布して事業所の取り組みを伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回、運営推進会議にて身体拘束について報告し、ご意見や助言等、頂戴している。また、年に2回勉強会を開催し、どのような事が身体拘束になるのか、言葉遣いについて等、話し合いをしている。	年2回勉強会を実施し、虐待についても例をあげて職員に問いかけている。幹線道路に面しているため玄関は施錠しているが、外出したい利用者には階段から転落の危険性があることと家族に説明して一緒に出るようにしている。玄関に「身体拘束廃止に関する指針」を設置しいつでも確認できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最低年に1回は勉強会を開催し、どのような事が虐待にあたるのか、虐待の種類や内容等も伝えている。グループ全体でも虐待に関しての発信が多く、職員にも都度、伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃より入居者に対しては、ご自身で出来る事はご自分でして頂く様に職員に伝えている。また、入居中の方で実際に成年後見人の方がいらっしゃる為、職員に説明し、理解出来る様に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書・利用契約書等、入居の際に必要な書類を説明し、質問等あれば説明し、理解頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは日頃よりコミュニケーションを図り、意向を汲み取る様にし、申し送りノート等で情報共有をしている。ご家族とは面会時や電話のやり取り時に意向を汲み取り、ご要望時は早急に対応する様、心掛けている。意見箱も玄関に設置している。	家族とは運営推進会議や面会時(予約制で対応)に意向や意見を聞き取り、コミュニケーション記録で共有している。利用者とは日ごとのコミュニケーションから意向を把握するように努め申し送りノートを活用して職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。職員の提案等を聞き、入居者様にとって良いと思われる事は反映し、職員本位の意見が上がった場合は、都度説明している。	管理者は、職員個々と話すようにするとともに、都度相談を受けるように努めている。職員会議、各階のケア会議(月1回フロアごと)などで話し合っている。行事は、職員の意見を反映して年度初めに決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ウエルグループ全体で、やりがいや向上心を持って頂ける様、OJTチェックリストを使用し、教育・指導を行い、給料の査定にも反映出来る取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTチェックリストを活用しながらの指導や、コミュニケーションを図りながら、各個々の長所・短所を汲み取り、個々に合わせた指導を行っている。また、社内研修があれば極力参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが第5類に変更後も、以前より交流の場が減少しているが、研修や説明会等あれば、ズームや直接参加したりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせ時や初期の面談時に不安に思っている事や困っている事等、お聞きし安心して頂けるような返答をする様に心掛けている。また、職員も周知出来る様、申し送りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、ご本人とご家族の要望をお聞きし、ケアプランに取り入れ、説明させて頂いている。また、他のサービスを知りたい方はグループ内外の説明を行い、必要時にはグループ内の地域連携室を紹介したり、信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族やケアマネ等から情報収集を行い。会話の中から、汲み取ったり、要望をお聞きする様にしている。ご希望時は特養の申し込みや他事業所等への住み替えの相談もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個々の残存能力や、やりたいと思われている事の見極めを行い、各個々の出来る事、やりたい事(食事作り・盛り付け・洗濯・掃除・菜園等)意向を伺いつつ一緒にしている。また、必ず感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と電話や面会時等、本人の日頃の様子等をお伝えしている。理解力が低下している方に関しては、本人に誰が来ているかお伝えし、少しでも理解出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に1回、自宅に外出され、ご家族で過ごされる方もいらっしゃる。また、ご兄弟や、親戚、お孫様等が面会に来られても、ご家族様同様、本人のご様子についてお伝えする様にしている。	面会の規制を解除し、外出や自宅訪問、美容院も家族対応で再開している。家族以外の面会も再開したことで、友人が家族と一緒に来所されている。年賀状が届けばサポートを行い、家族への年賀状の一言は利用者を書いてもらっている。希望があれば携帯電話やLINEのサポートも行っている。(1人)	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士でコミュニケーションが図れるように、座席位置の工夫をしたり、職員が間に入り、コミュニケーションを図っている。また、レクリエーション時にも入居者同士で話せるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や住み替えにより、退居になられた方でも、ご家族等、連絡があった場合はお話をしたり、亡くなられたと報告下さった時は葬儀に参列させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方も多々いらっしゃるが、発言や表情から本人の気持ちを汲み取る様に心掛けている。不快感を感じない様に笑顔・穏やかな気持ちで過ごせる様な対応を心掛けている。自身で要望を伝える事が出来る方は可能な限りではあるが、答える様にしている。	一緒にテレビを見たり、本を見たりして話をすることで、日常の中で出た言葉や表情から思いあをくみ取るように努めている。連絡ノートや申し送り等で職員間で情報共有するとともに管理者も把握している。晩酌、たばこは本人の希望に沿っている。	
24		○これまでの暮らしの把握	入居前にご家族や入居後本人にお聞きしたりして、アセスメントシートや申し送りノート等を用いて情報共有出来る様にしている。普段の会話からも昔の話等お聞きしたら職員間で情報共有する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個々の過ごし方やその日その日の心身状態の確認等、申し送ったり、本人の状態に合わせたケアを心掛けている。また、インシデント・アクシデントを活用し、ADLの状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、ご家族には本人の様子をお伝えし、ご意見やご要望等も頂いている。また、職員の意見も聞き、介護計画に反映する様にしている。	入所時家族から聞き取ったアセスメントシートを元に介護計画を作成している。ケアプラン更新前にモニタリングを行い、それ以外は申し送りノートで共有している。退院時は管理者が家族と話し、医師や看護師の意見、栄養状態、食事形態については管理栄養士に相談して申し送りノートに記入して共有している。必要に応じて介護計画にも反映している。	月々のモニタリングは実施しておらず必要時に行っているが、定期的なチェックは必要と考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個々にファイルを作成しているが、記録はiPadにて、日々の記録、バイタル・排泄状況・食事・水分量等々記録を残している。また日常の変化や気づき等も記録に残し、活用して見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの為、多機能を有しているとは言えないが、空床もあればお試しの利用も可能である。また、2ユニットでの合同の行事を行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事は中止になっており、参加出来ないが、ホーム内の行事には極力参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に往診があり、病院や薬局とも連携を図っている。内科以外では歯科往診や眼科往診もあり、他の専門医についても受診が必要な際は主治医やご家族と相談し、受診している。	入所前にかかりつけ医の継続と往診医への変更を説明のうえ選択してもらっている。通院は基本、家族が対応を行っている。毎週木曜日に往診があり、緊急時はオンコール体制で相談できる。歯科、眼科、耳鼻科の往診もある。その他の専門医へは家族で対応してもらっているが、家族一人で不安な場合は、同行することもある。情報共有は口頭で行い、申し送りノートで職員間共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤時は、日々の関りの中で気づいた事を報告し、必要時には看護師からの指示通りの処置を行ったり、適切な受診や看護が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交え、病院の担当者でご入居者の現状や予後を話し合い、可能な限り早期に退院出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大正生まれの方や90代以上の方も多いため、入居時に画面にて意思確認をしている。また、ご家族とも必要時には終末期について面談を行っている。今年は2名看取りを行った。	契約時に重度化指針により説明し、家族の希望があれば、事業所で看取りを行っている。入所時の説明後は状態に応じて家族に確認している。重度化や終末期については往診医の判断と確認を行っている。職員研修は、管理者が口頭で説明し、都度指示をするなど実践研修となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成を行い、全職員への発信・周知を行っている。また、緊急時は基本管理者が対応しているが、職員にも指導し、対応してもらう時もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画の作成を行い、年に2回エバホーム・はるみ保育園(年1回)と共同で避難訓練・消化訓練を行っている。地域の消防訓練はされていない為、参加出来ず。	消防と連動する警報機の確認と練習もふまえて年に2回、昼夜想定で避難訓練・消化訓練を実施している。避難指定場所の小学校へは年に1回避難経路の確認を行っている。福祉避難所を法人本部から申請中である。BCPIは作成中である。	福祉避難所に指定された後、運営推進会議等を通じてPRをしたり、地域交流を提案されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者各個々の人格を尊重しての言葉掛けや対応方法を行えるよう、スタッフ間で話し合い、職員の意識の統一を図る様に心掛けている。	利用者の尊重は法人の「職員の心得」に記載されており、携帯している。不適切な事例は、都度口頭や、月1回フロアごとに開催されるケア会議、申し送りノートなどで確認を行っている。気になる職員へは直接声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物ややりたい事等、ご入居者の好きな事を会話の中から聞き出し、本人に選んで頂ける様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のライフスタイルに合わせ、個々のペースに合わせた生活を送って頂いている。居室で過ごしたいと思っ方は無理にリビングへ出て来て頂かず、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通の出来る方は、衣類を選んで頂いたり、髪の高い方はご自身で髪をとき、ピンやゴムでくくってもらったりしている。意思疎通の難しい方は職員が衣類を選ぶが、季節に合った衣類や、毎日同じ衣類にならない様、配慮している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じる献立や、誕生日や行事時にはお弁当を注文したり、職員が手作りしたりしている。また、一緒に食事作りをしたり、盛り付けや食器洗いを手伝ってくださっている。	基本は手作りで、メニューは職員が考え、管理栄養士がチェックしている。2か月に1回おやつレクを実施している。事業所で収穫したシソでシソジュース作ったりしている。誕生日はケーキや食べたいものなどを聞いて希望に沿うようにしている。形状には個別対応している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が1か月に1日訪問し、献立等をチェックし、アドバイスをしてくれている。また、塩分や糖分を摂りすぎない様に配慮している。また、1日分の水分量が確保出来る様、個々の水分量の把握に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ・誘導・必要時には介助を行っている。必要に応じて舌ブラシを使用したり、個々の残存能力の見極めを行い、出来る事はしてもらっている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個々の排泄状況を把握し、必要時には誘導や声掛けを行っている。また、出来る事は自身で頂く様に、声掛け・促しを行い、出来ない所を介助している。布パンツで可能そうな方はリハビリパンツから布パンツに変更している。	排泄チェック表は、iPadと手書きの両方を活用して個々の排泄状況を把握し、誘導や声掛けを行っている。失禁があっても紙おむつは使用せず、自立に向けた支援に取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が出辛い方は水分を多目に摂取して頂いたり、歩行や体操で腸の動きを促進出来る様、心掛けています。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本午前中に入浴して頂いているが、午後からがいいと仰る方は午後からにしたり、夕方以降がいいと仰る方は、夕食前に入浴して頂いている。	原則、週2回午前中の中の入浴をしてもらっている。夕方を希望される方(1人要介助)には継続して入浴してもらっている。拒否の強い方には、日にちや時間を変更するなど無理強いないようにしている。またお風呂とは言わずに薬つける、看護師に見てもらおう。職員変えるなど工夫している。ゆず湯や入浴剤を使用し楽しんでもらっている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や、家事等、日常生活に沿った活動を通じて、個々に合った生活リズムを作り、安眠に繋がる様にしている。日中も居室で休まれたり、夜間もテレビを見てから休まれたりと、本人のペースに合わせて、眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量については主治医の指示を確認し、支援にあたっている。また、服薬変更時は主治医と相談しながら、変更・調整等、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯(干し・たたみ)・食事作りや盛り付け・裁縫等、各個々の残存能力に応じて役割分担を行い、されている。また、散歩や菜園等で、外の空気を感じて頂いたり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前の様な外出は出来ていないが、散歩等には出掛けている。ご家族からの要望があった際は、ご家族同行で外出されている。また、同敷地内に保育園があり、お砂場で遊んでいる所を見たり、隣が動物病院なので、動物を見たりしてもらっている。	コロナ禍前のようにドライブへは行けていないが初詣に行くことができた。(外出拒否のある方も行かれた。)日々の散歩を心掛け、田んぼのあるコースを1時間程度歩いている。1階はバルコニーで、2階はベランダで野菜を栽培し収穫を一緒にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご家族からお金を預かり、本人の物を購入等していたが、現在は買い物等にも行けない為、自己管理している方はいませんが、買い物は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙が届いた際は本人に渡し、自身の居室で管理している。また、ご家族や知り合い等から連絡があった時は取り次いだり、携帯をお持ちの方で電話の要望時は支援し、掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じて頂ける様に、机やソファ等をリビングや食堂に設置し、気心知れた方と会話できる様にしている。。また、四季折々の壁紙をメインの壁に貼り、季節を感じて頂ける様にしている。	本を読んだり自分のペースで過ごせるように配慮されている。レク以外の時間では利用者同士の会話もできている。職員と一緒に貼り絵や色を塗った作品を飾っている。明るく、温度と湿度管理がなされている。程よい自宅感があり、昼間はリビングで過ごされる方が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂等、各個々の入居者が好きな場所で気の合った方と過ごせる様に、フロアの配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しんだ家具や布団等、持込されたり、小物等は本人の好きな様に配置してもらい、各個々が心地良いと思われる空間作りを行っている。	介護用ベッドとタンスが設置されており、持ち込みは自由なため、写真、服、ぬいぐるみ、テーブルと椅子、ヘッドホンなど好みのものを持ち込まれている。衣類の入れ替えは家族が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーとなっており、手摺を伝う事で、ほぼ全ての場所の移動が出来る様になっている。また、各居室・トイレ・浴室等、表記してわかりやすくしている。		